

シラバス

理学療法学科 夜間部

4 年次

履正社国際医療スポーツ専門学校

統計学

必須

開講年次：4年後期

分野区分：基礎

単位：2単位

講義時間：30時間

知

◆**科目のねらい** 臨床研究ではさまざまなデータの特徴や様相を解析するため、統計学の基礎知識が必須となる。本講義では研究成果を正しく解釈するための統計学的手法を学ぶ。

◆**到達目標**：

- ① 研究により得られたデータの尺度や特性値や指標を理解することができる。
- ② グラフや表の特徴を理解し、データに応じ適切な図表を作成することができる。
- ③ 推定及び統計学的仮設検定の基本的な考え方を習得し、具体的事例に応用することができる。
- ④ 疫学の必要性について説明できる。
- ⑤ 疫学研究の種類について説明できる。
- ⑥ 疫学統計結果の読み方について説明できる。
- ⑦ 統計用語について説明できる。
- ⑧ 研究目的に応じた統計手法の選択について説明できる。
- ⑨ 代表的な統計手法（平均値の差の検定、分散分析、相関、回帰、二元表に基づく解析）の結果の読み方について説明できる。
- ⑩ サンプルサイズについて説明できる。
- ⑫ EBMのステップについて説明できる。
- ⑬ エビデンスレベルについて説明できる。
- ⑭ 診療ガイドラインとはどのようなものかについて説明できる。
- ⑮ 共有意思決定のあり方について説明できる。

◆**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎辰巳 信平

実務経験

◆ 授業計画・内容 ：		予/復時間	内容
第1回	統計学の基礎	0.5/0.5	①②⑦
第2回	データの尺度・特性値・グラフ	0.5/0.5	①②⑦
第3回	相関・相関係数	0.5/0.5	②
第4回	回帰・回帰直線	0.5/0.5	③
第5回	確率分布	0.5/0.5	③
第6回	記述統計学のまとめ・小テスト	0.5/0.5	①②③⑦
第7回	推定と検定の基礎	0.5/0.5	③⑧⑨
第8回	差の検定（パラメトリック法）	0.5/0.5	③⑧⑨
第9回	差の検定（ノンパラメトリック法）	0.5/0.5	③⑧⑨
第10回	母平均の区間推定、母比率の区間推定	0.5/0.5	③⑧⑨
第11回	母平均の検定、母比率の検定	0.5/0.5	③⑧⑨⑩
第12回	差の検定のまとめ・小テスト	0.5/0.5	③⑧⑨
第13回	分割表とその検定	0.5/0.5	③⑧⑨
第14回	疫学研究の実際	0.5/0.5	④⑤⑥ ⑫⑬⑭⑮
第15回	統計解析の実際	0.5/0.5	④⑤⑥ ⑫⑬⑭⑮

◆**教科書**：石川 朗/編『15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学』中山書店

◆**参考文献**：指定なし（適宜指示）

◆**授業方法**：教科書を用い講義を行う。適宜課題に取り組む。

◆**成績評価基準と方法**：定期試験（70%）、授業内試験（20%）、授業内課題（10%）

◆**関連科目**：

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

関数電卓もしくは関数電卓機能のあるスマートフォンアプリを用意する。また自身のノートPCを持参することが望ましい。

保健医療福祉制度論

必須

開講年次：4年前期

分野区分：専門

単位：1単位

講義時間：30時間

知

◆**科目のねらい：** 社会保障制度は、憲法25条の生存権規定に基づいて我々の生活の根本を支える制度である。まずは現在の社会保障制度の体系を学び、各制度について大まかに理解することが求められる。特に理学療法士に関連がある社会保険制度やその他社会福祉制度、関係法規について

◆**到達目標：**

- ① 社会保障制度の種類について列挙できる。
- ② 社会保障制度の歴史について説明できる。
- ③ 医療保険制度について説明できる。
- ④ 介護保険制度について説明できる。
- ⑤ 年金保険制度について説明できる。
- ⑥ 労働者保険制度について説明できる。
- ⑦ 保健・医療・福祉の施策と動向について説明できる。
- ⑧ 健康増進や疾病の早期発見の仕組みについて理解できる。
- ⑨ 社会福祉を支える考え方やキーワードを理解できる
- ⑩ 理学療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬など）について説明できる

◆**担当教員：【◎は科目責任者】**

◎竹元 志保

実務経験

◆ 授業計画・内容：		予/復時間	内容
第1回	社会保障の概念・目的・機能・体系	0.5/0.5	①
第2回	社会保障の歴史	0.5/0.5	②
第3回	医療保険制度の構造と体系①	0.5/0.5	③
第4回	医療保険制度の構造と体系②	0.5/0.5	③
第5回	保険診療の仕組み・公費負担制度	0.5/0.5	③⑧⑩
第6回	介護保険制度の概要①	0.5/0.5	④
第7回	介護保険制度の概要②	0.5/0.5	④
第8回	介護保険制度の概要③	0.5/0.5	④⑧⑩
第9回	労働者保険制度の概要①	0.5/0.5	⑤⑥
第10回	高齢者福祉の実際と課題	0.5/0.5	⑦⑨
第11回	児童福祉の実際と課題	0.5/0.5	⑦⑨
第12回	障害者福祉の実際と課題	0.5/0.5	⑦⑨
第13回	障害者福祉を支える理念	0.5/0.5	⑦⑨
第14回	公的扶助の実際と課題	0.5/0.5	⑦
第15回	総まとめ（試験実施/解説）	0.5/0.5	

◆**教科書：適宜、必要資料を配布**

◆**参考文献：**

◆**授業方法：**基本的には講義形式で行うが、グループワークを取り入れながら理解を深る。

◆**成績評価基準と方法：**小テスト（30）と択一試験（70）で採点する。

◆**関連科目：**理学療法管理学、地域理学療法学

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**

社会保障に関するニュースなどをみていただくと、より分かりやすく受講できると思うので、最新のニュースに関心をもってほしい。

ケアマネジメント論

必須

開講年次：4年通年

分野区分：専門

単位：1単位

講義時間：30時間

知

◆**科目のねらい：** ケアマネジメントの概要を理解した上で、地域ケア会議での事例を基にした事例検討等を行う

◆**到達目標：**

- ① 介護保険制度の大枠が理解できる
- ② ケアマネジメントの概要が理解できる
- ③ 地域ケア会議等における理学療法士の役割が理解できる

◆**担当教員：【◎は科目責任者】**

◎渡辺 健太

実務経験

○ 病院勤務（理学療法士）として臨床

◆**授業計画・内容：**

予/復時間

内容

第1回	ケアマネジメントとケアマネジャーとは	0.5/0.5	②
第2回	介護保険制度ができた社会背景と将来像	0.5/0.5	①
第3回	介護保険サービスと社会資源の理解①	0.5/0.5	①
第4回	同上	0.5/0.5	①
第5回	地域ケア会議における事例検討①	0.5/0.5	③
第6回	同上	0.5/0.5	③
第7回	地域ケア会議における事例検討②	0.5/0.5	③
第8回	同上	0.5/0.5	③
第9回	居宅サービス（通所）における事例検討	0.5/0.5	①②
第10回	同上	0.5/0.5	①②
第11回	施設サービス（入所）における事例検討	0.5/0.5	①②
第12回	同上	0.5/0.5	①②
第13回	終末期における事例検討	0.5/0.5	①②
第14回	同上	0.5/0.5	①②
第15回	総括	0.5/0.5	①②③

◆**教科書：**指定なし（適宜配布）

◆**参考文献：**スッキリわかる！介護保険 基本としくみ、制度の今とこれから
第2版2023年版 ケアマネジャー はじめてレッスン

◆**授業方法：**講義形式、グループワーク

◆**成績評価基準と方法：**出席率、課題・発表、筆記試験を総合的に判断し評価する

◆**関連科目：**地域理学療法学

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**

理学療法特論Ⅱ

必須

開講年次：4年後期

分野区分：専門

単位：4単位

講義時間：120時間

知・技
思・判

■**科目のねらい**： 理学療法士として必要である他職種連携、徒手療法、福祉用具の実技的内容を学ぶ。また国家試験対策の講義として実施していく。

■**到達目標**：

- ① 他職種連携授業を通して、他職種との交流を図る。また理学療法士としての意見を発信できる。
- ② 姿勢・動作を通して、ハンドリングや徒手療法を学ぶ。
- ③ 福祉用具や機器を実際体感し、使用方法やリスク等を学ぶ。
- ④ リハビリ、その他資料を通して国家試験合格률을上げる。具体的にはリハビリの実施率（指定）を達成する

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎市田修一 ◎相星裕生 ○山中善嗣 ○安村亮

実務経験

■**授業計画・内容**：

予/復時間

内容

国家試験対策
31コマ

グループワークや個人ワーク、リハビリを通して国家試験対策を実施。

0.5/0.5

④

徒手療法
4コマ

あらゆる疾患に対応できるように姿勢動作分析とハンドリング等を学ぶ

0.5/0.5

②

シーティング
福祉用具機器
4コマ移乗介

福祉用具、シーティング、移乗方法を方法を最新の機器を通して学ぶ

0.5/0.5

③

多職種連携
5コマ

他職種連携授業を通して、他職種（主にN R S）と意見交換を実施する。

0.5/0.5

①

◆**教科書**：指定なし（適宜配布）

◆**参考文献**：指定なし（適宜指示）

◆**授業方法**：グループディスカッション、ポートフォリオ、発表

◆**成績評価基準と方法**：出席率、授業態度、国試対策ではリハビリ実施解答数と正解率を指定する（オリエンテーションにて告知）

◆**関連科目**：

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

※科目順序は時間割を確認すること。成果物の詳細は国試対策初回講義にて告知します。

理学療法プロフェッショナル探究

必須

開講年次：4年通年

分野区分：専門

単位：2単位

講義時間：90時間

知・技・思判・
表・態

■**科目のねらい：** 本講義は、卒業研究としての位置づけを基盤としつつ、研究活動そのものを目的とするのではなく、理学療法士としての思考様式および専門職としてのコンピテンシーを養成することを目的とする。
臨床疑問の設定、文献検索、エビデンスの批判的吟味、考察および発表の一連の過程を通して、臨床的思考を構造化し、自らの判断に根拠を持つ力を育む。
また、他者との議論や省察を通じて思考を再構成し、主体的に学び続ける探究姿勢および専門職としての態度を形成する。

■**到達目標：**

- ① 臨床疑問を設定し、課題として構造化できる
- ② 文献を基に自らの考えを形成し、臨床判断の根拠を説明できる
- ③ 病態・評価・治療・社会背景を統合し、臨床的に妥当な考察ができる
- ④ 研究および考察内容を論理的に記述・発表できる
- ⑤ 他者との議論を通じて思考を発展させることができる
- ⑥ 主体的に学習に取り組み、探究し続ける姿勢を持つ
- ⑦ 専門職としての倫理観と責任感を持つ

■**担当教員：【◎は科目責任者】**

◎岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、久保明裕、清水浩之、花園幸太郎、藤井隆太、松村明保、能登洋平、山川百代
実務経験

■**授業計画・内容：**

研究活動のみにとらわれず、様々な実践活動を通して、以下について学ぶ。

第1回～第30回

- ・疑問の設定
- ・文献検索
- ・要約
- ・研究および実践活動のデザイン
- ・エビデンスレベルとバイアス
- ・論文の読み方
- ・批判的吟味
- ・文献レビュー作成
- ・探究姿勢と生涯学習（プロフェッショナルの在り方）
- ・発表における論理的構成
- ・プレゼン技法

◆**教科書：**指定なし

◆**参考文献：**指定なし

◆**授業方法：**講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせる。

学生主体の課題探究型学習を中心とし、教員はファシリテーターとして学習を支援する。

◆**成績評価基準と方法：**最終発表および中間発表：40%、レポート（研究・考察）：30%、授業参加（発言・ディスカッション）：20%、ポートフォリオ（振り返り）：10%

◆**関連科目：**クリニカルリーズニングⅠ・Ⅱ、理学療法評価学（講義・演習・実習）、臨床運動学、姿勢・動作分析学、統計学、研究法関連科目、医療面接とコミュニケーション技法、各理学療法治療学

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**

本講義は、知識の習得を目的とした科目ではなく、理学療法士としての思考様式および専門職としての態度を形成する統合科目である。
自ら問いを立て、他者と議論しながら思考を深めることが求められるため、主体的かつ積極的な参加を期待する。

理学療法管理学

必須

開講年次：4年後期

分野区分：専門

単位：1単位

講義時間：30時間

知・思・判

■**科目のねらい**： 自己管理、業務管理、職場管理を3本柱に講義し、グループワーク・発表も交えながらリーダー的立場になった時の管理者像をイメージしていく。

■**到達目標**：

- ① 自己管理、業務管理、職場管理とその重要性を理解できる。
- ② 理学療法士、社会人として責任感を持てるようになる。
- ③ 経験年数が上がった時の管理者像がイメージできる。
- ④ 理学療法の実施における多職種との業務調整（処方内容の確認、多職種への申し送り）について説明できる
- ⑤ 理学療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる
- ⑥ 理学療法機器の保守点検・安全管理について説明できる
- ⑦ 理学療法機器の配置計画（職場環境デザインを含む）について説明できる
- ⑧ 人事考課（職員採用・昇格審査など）について説明できる
- ⑨ 労務管理（勤務時間・休暇管理など）について説明できる
- ⑩ コンプライアンス・法令違反について説明できる
- ⑪ ハラスメントについて説明できる
- ⑫ 医療広告ガイドラインについて説明できる
- ⑬ 対象者・多職種との利害衝突ならびにコンフリクトマネジメントについて説明できる
- ⑭ 情報管理の必要性について説明できる
- ⑮ 知り得た情報の発信、記録、保存に関して、情報漏洩などのリスク管理ができる。
- ⑯ 臨床教育の方法（メンター制、プリセプター制など）について説明ができる
- ⑰ 生涯学習制度について説明できる

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎島 樹

実務経験 ○ 訪問看護ステーションにて理学療法士として臨床

■授業計画・内容：		予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション、管理とは	0.5/0.5	①
第2回	自己管理	0.5/0.5	①②
第3回	組織とは	0.5/0.5	②
第4回	業務管理	0.5/0.5	①④⑦⑨⑫ ⑪⑫⑭⑮
第5回	人事、スタッフ評価	0.5/0.5	⑧⑨
第6回	教育、キャリア形成	0.5/0.5	⑫⑬
第7回	リーダーシップとマネジメント	0.5/0.5	③
第8回	リスクマネジメント	0.5/0.5	⑥⑬⑭⑮
第9回	経営・運営管理	0.5/0.5	①③
第10回	周囲との連携	0.5/0.5	④⑤⑬
第11回	理学療法管理の具体例①	0.5/0.5	③④
第12回	理学療法管理の具体例②	0.5/0.5	③④
第13回	グループワーク①	0.5/0.5	③
第14回	グループワーク②	0.5/0.5	③
第15回	まとめ	0.5/0.5	③

◆**教科書**：金谷さとみ／他監 『リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック』 メジカルビュー社

◆**参考文献**：奈良勲／他編『理学療法管理学』医歯薬出版、石川朗／他編 理学療法テキスト『理学療法管理学』中山書店

◆**授業方法**：講義、グループワーク、プレゼンテーション

◆**成績評価基準と方法**：プレゼンテーション内容（100%）

◆**関連科目**：

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

実際に職に就いた時のことをイメージしながら授業に望んで下さい

理学療法教育学

必須

開講年次：4年後期

分野区分：基礎

単位：1単位

講義時間：30時間

知

■**科目のねらい**： 教育と社会の関係、また子供や家族、格差といった教育に関わる現代的問題について、教育社会学の理論や研究をふまえつつ概説する。

■**到達目標**： ① 教育や、教育をとりまく社会に関する問題について、教育社会学の基礎的な理論や概念に基づいた考え方を身に付け、考察を深めることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎笹田 照央

実務経験

■**授業計画・内容**：

予/復時間 内容

第1回	イントロダクション教育学という学問分野、および本講義の進め方について説明する	0.5/0.5	①
第2回	教育と学校①：教育の機能教育のもつ3つの機能である「社会化」「選抜」「正当化」について講義する	0.5/0.5	①
第3回	教育と学校②：戦前～戦後の教育制度近代的な学校教育の在り方の成り立ちと、戦前～戦後の教育改革について講義する	0.5/0.5	①
第4回	教育と学校③：戦後の教育問題戦後の教育拡大と、それに伴い発生した教育問題について講義する	0.5/0.5	①
第5回	教育と学校④：現代の教育改革現代の教育の在り方について、これまでの教育改革の流れに位置づけながら講義する	0.5/0.5	①
第6回	教育と学校⑤：教員文化と働き方教員の働き方の特性と、教員負担の増加の社会問題化について講義する	0.5/0.5	①
第7回	教育と学校⑥：学校教育とジェンダー学校で明示的・非明示的に伝達されるジェンダー規範について講義する	0.5/0.5	①
第8回	教育と家族①：近代家族の成立近代的な家族の在り方の成り立ちについて、歴史的視点から講義する	0.5/0.5	①
第9回	教育と家族②：教育する家族近代的な家族の在り方がもたらした「教育する家族」の在り方について講義する	0.5/0.5	①
第10回	教育と家族③：家族教育の隘路子育て・家庭教育がより重要視されるようになった現代の家族問題について講義する	0.5/0.5	①
第11回	教育と家族④：ペアレントクラシー家庭の社会経済的背景の違いがもたらす教育格差について講義する	0.5/0.5	①
第12回	教育と格差①：文化的再生産家庭の文化的背景の違いがもたらす教育格差について講義する	0.5/0.5	①
第13回	教育と格差②：ジェンダーによる格差男女差がもたらす進学における格差について講義する	0.5/0.5	①
第14回	教育と格差③：教育の地域間格差生まれ育った地域の違いがもたらす教育格差について講義する	0.5/0.5	①
第15回	教育と格差④：インクルーシブ教育マイノリティが負う教育格差について、外国人児童を中心に講義する	0.5/0.5	①

◆**教科書**：指定なし（授業資料を作成し配布）

◆**参考文献**：指定なし（適宜指示）

◆**授業方法**：映像資料と講義

◆**成績評価基準と方法**：毎回のコメントシートによる平常点（40点）と、試験（60点）

◆**関連科目**：

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

受講生のニーズに合わせて内容を変更する可能性がある。

理学療法治療学特講Ⅱ

必須

開講年次：4年後期

分野区分：専門

単位：1単位

講義時間：30時間

思・判
表・態

■**科目のねらい** 各疾患の臨床的課題を動画や写真等で提示し、基本的な知識、対応を補充しながら評価・治療を解説していきます。

■**到達目標**：

- ① 臨床場面における患者の臨床的課題を理解する。
- ② リハビリテーションにおける疾患の多様性を理解する。
- ③ 各疾患に対する介入方法（評価・治療）を理解する。
- ④ チームアプローチ、多職種での介入を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎森下健、田淵 成臣、酒井 宏介、東山 学史、是澤 克彦、本田 丈歩、塩見 太郎、高橋 郁美、西端 彩奈、
岩根弘人、篠田夏穂
実務経験

■**授業計画・内容**：

予/復時間

内容

第1回	東山	運動器疾患	股関節領域の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第2回	酒井	運動器疾患	足部・足関節の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第3回	岩根	運動器疾患	膝関節疾患の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第4回	東山	スポーツ疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第5回	是澤	呼吸器疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第6回	本田	呼吸器疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第7回	是澤	循環器疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第8回	篠田	透析リハ	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第9回	森下	脳血管疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第10回	高橋	脳血管疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第11回	塩見	脳血管疾患	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第12回	塩見	糖尿病	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第13回	田淵	認知症	作業療法アプローチ	0.5/0.5	①～④
第14回	西端	摂食嚥下（S T）	の評価・治療	0.5/0.5	①～④
第15回	田淵	地域包括ケア病棟/退院支援		0.5/0.5	①～④

◆**教科書**：指定なし（適宜配布）

◆**参考文献**：指定なし（適宜指示）

◆**授業方法**：講義を中心に実施する。

◆**成績評価基準と方法**：授業態度、出席

◆**関連科目**：

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

理学療法治療学特講Ⅲ

必須

開講年次：4年後期

分野区分：専門

単位：1単位

講義時間：30時間

知・技

■**科目のねらい：** 理学療法技術を提供するにあたり、学生や新人療法士をはじめとした初学者に最も不足しているのは、知識ではなく体験と考える。講師の物まねを行い、技術を提供し続けると、療法士自身が腰痛などのトラブルを発症し、継続して十分な技術を提供することは難しい。本講義では、運動の体験により療法士（学生）の身体づくりと技術の応用について学ぶ。具体的には、起居移動動作の誘導（治療）について、体験学習前後でどのような違いがあるのかを伝達する。また、相手と自分の（重さの）つり合いを体験し、それらをトランスファー技術に応用する。これら身体づくりと治療の応用後に、多様な疾患に対する治療アプローチを学習する。

■**到達目標：**

- ① 自らの身体で起居動作を体験し、技術提供時における療法士の位置（ポジション）や効率的な誘導方法が実践できる。
- ② 身体の使い方・重さのつり合いを学び、トランスファー技術に応用できる。
- ③ 脳血管疾患・運動器疾患などポピュラーな疾患から、ウィメンズヘルスなど今後理学療法の発展が求められる疾患まで幅広い技術の実践を学べる。

■**担当教員：**【◎は科目責任者】

◎森 憲一、春本 千保子

実務経験 ○ 病院勤務（理学療法士）

■**授業計画・内容：**

予/復時間

内容

第1回	セラピストの身体づくりが理学療法の実践に必要な知識を伝える。講義と実技。	0.5/0.5	①
第2回	講師の口頭指示に従い学生が動き、起居動作を体験する。実技のみ。	0.5/0.5	①
第3回	体験から得られた経験と分析より、起居動作の治療的誘導を実践する。実技。	0.5/0.5	①
第4回	移乗動作の実践に必要な重さのつり合いを体験する。実技。	0.5/0.5	①
第5回	クワド ピボット トランスファーの実践 1 講義と実技。	0.5/0.5	②
第6回	クワド ピボット トランスファーの実践 2 実技。	0.5/0.5	②
第7回	移乗動作の応用とセラピストの体さばきの学習 実技。	0.5/0.5	②
第8回	スライドおよび動画による症例検討（主に整形外科疾患）と、関連する治療技術の練習①。講義と実技	0.5/0.5	③
第9回	スライドおよび動画による症例検討（主に整形外科疾患）と、関連する治療技術の練習②。講義と実技	0.5/0.5	③
第10回	スライドおよび動画による症例検討（主に脳血管疾患）と、関連する治療技術の練習①。講義と実技	0.5/0.5	③
第11回	スライドおよび動画による症例検討（主に脳血管疾患）と、関連する治療技術の練習②。講義と実技	0.5/0.5	③
第12回	スライドおよび動画による症例検討（主に脳血管疾患）と、関連する治療技術の練習③。講義と実技	0.5/0.5	③
第13回	スライドおよび動画による症例検討（主に脳血管疾患）と、関連する治療技術の練習④。講義と実技	0.5/0.5	③
第14回	スライドおよび動画による症例検討（主にウィメンズ）と、関連する治療技術の練習⑤。講義と実技	0.5/0.5	③
第15回	スライドおよび動画による症例検討（主にウィメンズ）と、関連する治療技術の練習⑥。講義と実技	0.5/0.5	③

◆**教科書：**指定なし（適宜配布）

◆**参考文献：**指定なし（適宜指示）

◆**授業方法：**講義実技

◆**成績評価基準と方法：**筆記試験（100％）

◆**関連科目：**

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**

動きやすい服装での受講。肘・膝が出せるような服装。

臨床総合実習

必須

開講年次：4年通年

分野区分：専門

単位：18単位

講義時間：810時間

知・技・思判・
表・態

■**科目のねらい：** 本講義では、臨床評価実習の内容に加え、治療実践ならびに治療効果判定等を学ぶことを目標とする。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型実習を通して、様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務についても理解を深める。

■**到達目標：**

- ① チェックリスト内の項目（水準Ⅰ：指導者の直接監視下で実習生により実施されるべき項目）について可能な限り実施をし、その意義・目的について学ぶ。
- ② 実習における各自の行動目標を明確化できる。
- ③ 理学療法の対象者との関係性構築について理解できる。
- ④ チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割について理解できる。
- ⑤ 理学療法プロセスについて理解できる。
- ⑥ 対象者に対する理学療法実践において、リスク管理ができる。
- ⑦ 対象者に対する理学療法実践において、理学療法評価ができる。
- ⑧ 対象者に対する理学療法実践において、理学療法治療技術ができる。
- ⑨ 地域理学療法における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。

■**担当教員：【◎は科目責任者】**

◎岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、久保明裕、清水浩之、花園幸太郎、藤井隆太、松村明保、能登洋平、山川百代
実務経験

■**授業計画・内容：**

実習前オリエンテーション
担当教員による個別オリエンテーション
実習に対する行動目標設定
総合臨床実習として、学外実習（医療提供施設）9週間×2回
地域理学療法における臨床実習として、学外実習（医療提供施設）1週間
実習後ホームルーム
担当教員による個別FB
ケースサマリーを用いた症例発表
実習後客観的臨床能力試験（OSCE）
実習後多肢選択筆記試験（CBT）
症例発表

◆**教科書：**臨床実習概要、臨床実習要項、その他適宜配布

◆**参考文献：**指定なし（適宜指示）

◆**授業方法：**OSCE、CBT、実習前オリエンテーション、実習、実習後HR、症例発表

◆**成績評価基準と方法：**第Ⅰ期・第Ⅱ期・地域理学療法における臨床実習の形成的評価（実習指導者による情意領域ルーブリック評価、認知領域ルーブリック評価、認知・精神運動領域チェックリスト）、総括的評価、提出物などにもとづき学校が行う。
また、臨床実習という科目性質上、社会的基礎力の欠如を認めると判断される者については、実習への参加を認めない。また、実習前オリエンテーションを受講しない者に関しては、実習への参加を原則認めない。

◆**関連科目：**全科目

◆**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**

実習施設の職員、指導者の指示に従い、本校学生の立場をわきまえ行動すること。